

《2019 年度秋インカレ運営スタッフ公募》

山川です。この文章を発信する立場は、あとで図表でも示しますが、インカレ実行委員会が立ち上がるまでの初動で必要なことをしている日本学連の副会長としてになります。そしてその副会長という職制を得ながら、オリエンテーリングプロ事業者として日々活動している者という立場になります。

さてインカレプログラムの77ページに次の秋インカレの運営スタッフの公募広告を掲載していただきました。

まずこれについて説明いたします。秋インカレはフランチャイズ制で従来運用してきました。それにスプリント種目が加わり、運営のハードルも上がったのですが、過去の例をたどると(秋春合わせて)、嶽山(大阪 OLC)、金津(福井県協会)、作手(愛知県協会)、希望が丘(滋賀県協会)などと地元団体と協業してきました。また YMOE 社以外の発案による秋インカレも富士山麓/奇石の森などありました。インカレスプリントの第1回も富士見リゾートという絶好の環境をお借りすることが出来、地元クラブであるトータスと協業する形で成功を収めております。しかしスプリント/ロングになったの2回目の秋インカレ以降、スプリントもロングもできるネタはそうそうありません。2回目はヤマカワハウスが利用できる栃木県の開催になり、第3回もフランチャイズ提案をしていただける団体はなく、栃木以外で山川がすぐに渉外通せる場所ということで駒ヶ根を差し出す以外に無くなってしまいました。2019年度の秋インカレに関しては、元の発想の他団体・既得権のあるところでの開催を見込んで実行委員会設立前の水面下活動を副会長として行ってきましたが(このあたり秋インカレの担当理事が職務を果たしていないことも関係しています、ピュアなインカレ実行委員会方式の春はちゃんとやっていただけていますが・・・)、当地でのトレインでインカレ後、学生団体が起こした渉外問題をタテにうちの協会は学連から大損害を受けているからとお断りされてしまいました。結局、渉外上必要な準備期間を鑑み、次の秋も再び山川の日常の渉外範疇の中からロングトレインを切り出して提供せざるをえなくなり、それが岐阜県中津川市の「椀の湖」になり、それならとインカレスプリントできそうな場所の渉外を進めた所、会場のスタジアムが11/9以外実質使えないことが判明し、実行委員会設立前ですが、会場を仮押さえし、前年度までに打ち合わせておかねばならない会合も忙しい中こなし、すでに日程だけ発表するに及んでいます。

かような事情で、ヤマカワの渉外範囲ということで東海地区ばかりでの秋インカレ開催が連続になっております。いくらなんでも毎回 OLC ルーパーに頼むわけにも行かないと思っています。また、駒ヶ根インカレでは、まだインカレのために動けるプロ事業者は私一人、西プロは別件でもう独立して超忙しくてとても頼める状況に無く、私一人がどこか実力のある団体に協業の声かけざるを得ない状況でした。しかし、この1年で後進のプロ事業者が複数現れてく

れて、ルーパーも時間的負担の大きい仕事は結局彼ら後進のプロ事業者に頼むという状況でした。

それならば、前々から思っていた形式、（他のスポーツ種目にも倣って）プロ集団と、熱い気持ちのボランティア（もちろんお礼は出る）というもう少し進化した形で実行委員会を全国規模の呼びかけで構成して行うのもありかなと思うに至り、このような公募形式になっています。またさすがに東海地区ばかり（駒ヶ根も信越というよりはアクセス的には東海）で開催していますので今回の春インカレ前までに実行委員会立ち上げは困難でした。

幸いにしてロングの渉外環境は過去資産をそのまま流用できる場所ですので、これからの準備でも十分、準備スケジュールをみんなで共有すれば11月の秋インカレ開催には万全の体制で臨めると判断し、今インカレプログラムにスタッフの公募広告を掲載していただきました。

趣旨を汲み取り、パッションの高い方は応募していただきたくお願いします。

《2019年度秋インカレ 運営スタッフ応募要領》

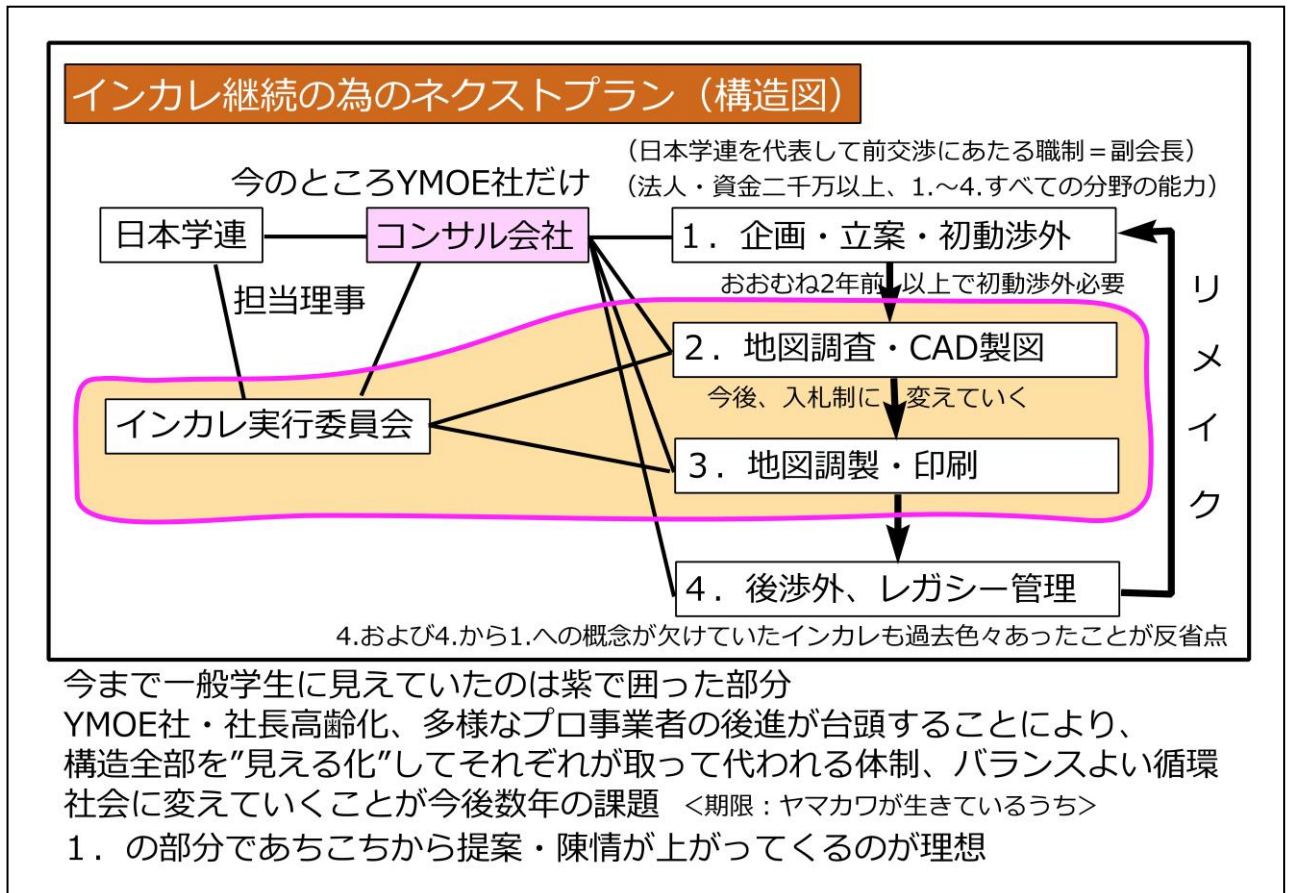
2019年11月9日（土）スプリント競技 @中津川市内

2019年11月10日（日）ロング・ディスタンス競技 @中津川市「椈の湖」

- ・インカレの裏方を熱く支えて頂ける方
- ・プロ事業者枠、幹部運営者、当日あるいは直前だけの運営サポート者、すべて公募から、人が人を呼ぶという形で実行委員会を構成していきたいと考えています。
- ・地域は限らない。全国どこからでも。ただし遠隔地の方は一人ではなくてチームで応募が望ましい。
- ・実行委員長をプロの統括係が務めるか、あるいはボランティアから出すかも改めて主要メンバーが集まってから検討しましょう。
- ・プロ事業者枠も一応公募制です。自分の資源がこのような分野で貢献できます、という自己アピールをもって応募して下さい。
- ・幹部役員は、プランナー、競技責任者、運営責任者などなどインカレ運営の根幹をなす各部門（特に演出面）を公募します。はここらも団結力が大切ですので、チームでまとめて応募いただけると助かります。その中での話し合いの中で今回の秋インカレの代表者となる実行委員長を決めます。私としては、実行委員長もボランティア幹部役員の中から選出するのが良いと考えています。＜とりあえず2018年度春インカレ閉会式でのインカレ旗の引継ぎはYMOE社の社長が仮に受けておきます。＞そして集まった仲間から当日の体制をさらに輪を広げていく、こんな形を想定しています。
- ・待遇に関しては、秋はフランチャイズ制の原則にのっとり、会計的にプロ仕切り、プロ責任の形になりますので、ボランティアの範囲内で厚遇（ルーパーとの協業程度）をお約束します。

《応募先》 YMOE 社山川克則まで直接メール、もしくは加入している SNS 等で個人的にお声かけ下さい。 rmo-s.yamakawa@nifty.com です。

《参考図》 インカレ開催までの構造図



《追記》尚、上記図表中全体構造を“見える化”するとは書いていますが、それは山川の人生そのものですので、なかなか書ききれません。そもそもインカレがどのようにして始まったか？誰がインカレをやろうと言い出したのか？その後どのような経緯をたどって今日まできているのか？それらを語りつくすと長編の論文一個できてしまいます。学連 35 周年事業を機にここでそれらをまとめておくことも必要だと思っていますので、全日本と GW 後山川の心臓のメンテナンス入院の際に腰おちつけて執筆、それを坂野に万人が読みやすいようにリライトしていただき WEB に足跡を残しておこうと考えています。

《文責：(有) ヤマカワオーエンタープライズ 代表取締役社長 山川克則》